

**頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書**

**アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する
「地域の知（ノリッジ研究）」と研究プラットフォームの構築**

派遣者：重田 眞義

派遣期間：2013 年 2 月 14 日～2 月 23 日

派遣先：ライデン大学南アフリカ研究所（オランダ）

キーワード：実践的活動、資源、保全、開発

1. 研究課題について

アジア、アフリカ諸地域の持続的な発展において、知的資源を生かした「地域の知」の研究（ノリッジ研究）は重要であり、その視点は、長期にわたるフィールドワークを基盤にして研究をすすめてきた、京都大学の地域研究において中核的なものである。そのような視点をかねそなえ、アフリカを対象として研究をつづけてきた若手研究者を派遣することと、彼らによる共同研究を円滑にすすめるため、日本、アジア・アフリカ、欧米の地域研究拠点を結び、アジア・アフリカの包摂的かつ持続的な発展を可能にするための世界的な研究プラットフォームの構築をめざす。

2. 派遣の内容

2013 年 2 月 15 日～2 月 22 日にかけて、オランダ、ライデン大学アフリカ研究所とヴァーヘニンゲン大学を訪問し、プラットフォーム構築の可能性を模索した。アフリカ研究所所長 Ton Dietz 博士や John Abbink 博士からは、オランダにおけるアフリカ研究の現状について情報を得るとともに、今後の共同研究の可能性について意見交換をおこなった。また、ヴァーヘニンゲン農業大学社会学部では、Han van Dijk 博士と P.G.M.Hebinck, 博士とともに、フィールドにおける院生への教育や、若手をふくめた共同研究の可能性について意見交換をおこなった。

3. 派遣中の印象に残った経験や体験

オランダのヴァーヘニンゲン大学の研究者は、アフリカのエチオピア農業について先駆的な研究にとりくんできた。今回の派遣でヴァーヘニンゲン大学の研究者との意見交換を通じて、社会学部のスタッフとして農学などの博士号をもった自然科学系の研究者がいること、また、彼らが国による開発実践の活動ではあまり中心的に取り組まれていない分野の調査（たとえば、プロジェクトが終了して 10 年後の実態把握調査など）にとりくんでいることを知り、より現代的な文脈にあわせて研究活動が展開されているのは印象的であった。また、非常に多くのアフリカからの留学生をうけいれている点についても印象ぶかった。

また、アフリカ研究所の図書館では、京都大学アフリカ地域研究資料センターが刊行し続けている雑誌（African Study Monographs）の最新号や、日本ナイル・エチオピア学会が発刊する英文雑誌の最新号も新着雑誌におさめられており、日本のアフリカ研究の研究成果が、海外の研究機関でもアクセス可能なかたちで公開されていると実感できた。

4. 目的の達成度や反省点

ライデン大学アフリカ研究所もワガニンゲン大学社会学部において、アフリカにおける研究活動のなかで、より実践的な要素をふまえた研究活動を展開していることを実感できた。京都大学アフリカ地域研究資料センターがここ数年のあいだにとりくんできた、研究と実践を架橋するプロジェクト活動と呼応する部分もあり、共同研究をおこなう素地が整っていることを確認できたという点においては、一定の達成があった。それと同時に、これらの研究所や大学と共同研究を実施するためには、個々の研究者の関係性を基盤にして共同研究を実施する必要性をあらためて感じ、このプログラムに取り組んでいる若手研究者の派遣とそれに関連する共同研究を促進することは、世界的な研究プラットフォームの構築につながることを確信した。

5. 今後の派遣における課題と目標

ライデン大学アフリカ研究所もワガニンゲン大学社会学部の研究者たちの最新の研究動向を確認することができた。ライデン大学アフリカ研究所では、アフリカにおける携帯電話の普及とそれに関わる実践や、紛争といったより現代的な課題と、社会科学的な側面からのアプローチに重点をおいている。これらの対象は、アフリカにかぎらずアジアの諸地域でも共通する点があるので、若手研究者の共同研究の可能性として今後の課題のひとつにあげられる。一方ヴァーヘニンゲン大学社会学部には自然科学系の学位をもった教員がいるので、今後は実践的な活動における生物多様性の保全や資源の管理といった自然科学的な視点をふまえたテーマを設定し、若手研究者を含めた共同研究の可能性を模索することが今後の課題と目標としてあげられる。



写真1 ライデン大学アフリカ研究所図書室。左から所長 Prof.Dr.Ton Dietz、Prof.Dr. Jon Abbink、そして派遣者（重田眞義）



写真2 ライデン大学アフリカ研究所図書室の蔵書について説明をうける



写真3 Prof.Dr.Han van Dijk と Dr.P.G.M.Hebinck からワガニンゲン大学アフリカ研究の最新情報を得る